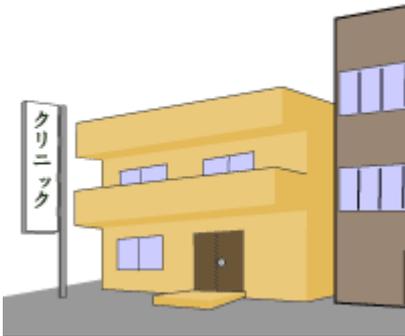


(川中先生のブログ)

小児の救急受診を考える

2014年06月06日 06時15分16秒

テーマ：医療



こういう事を書くと、偉そうだ、とお叱りを受けるとは思いますが、子どもの急患について少し意見を述べてみます。

4日の梅雨入りの日の夜、夜間救急当番でした。救急は6時から10時までが当番です。

夜間救急当番は、医師会員のボランティアで、救急当番の義務はありません。

先日、暇だったので10時より少し早めに店仕舞いした当番医院があったようで、医師会にきつい苦情、お叱りの電話があったそうです。しかし、当院では、受診すると電話があって10時を30分以上過ぎるまで待っていても来らず、看護師さんが外に出て待っていても来られなかった方も居られました。受診は、

時間外でもお互い、ルールを守りたいと思います。

その日、昼間の診療が暇で、夜間当番に英気を養っていましたが、夜の急患も4時間で4人と少なく拍子抜けでした。東広島では、ウイルス性の胃腸炎が流行っています。

『 昼間掛かりつけに診てもらったんですが、今~~のような状態ですが、明日まで待つて掛かりつけにかかっても大丈夫でしょうか？ 』 と言うような電話相談ばかりかかりました。

昼間診て貰って、投薬も受けて、特に急変が無いのに何が心配なんでしょう？ 著変が無ければ、明日まで待つて、信頼しておられるかかりつけ医にかかれたら良いと思います。相談相手が無いから親御さんも不安なんでしょうが、今のような十分に気軽に医療を受けられる時代、急性の病気で子どもが命を落とすことはまずめったにない、元気な小児では一刻を争う状態は滅多にない、などと言う事をもっと知ってもらう必要があると思います。

小児科医はやさしいから、心配だったらすぐイラッシャイ。親御さんの方も、入学まではほとんどの方が時間外でも500円で受診できるので、気軽に受診されます。コンビニ診療が花盛りです。

急患のほとんどが子どもですが、本当に危険なのは老人の急変で、うちのよう
な開業医に連れて来られても、十分対処できず、二次救急病院に転送すること
が多いと思いますが、小児の場合、そういう事は滅多にありません。親の安心、
気休めのために連れてこられた子どもさんがほとんどで、明日まで待っても良
かった、と言う患者さんがほとんどです。

まず、慌てず騒がず、飲んだり食べたりは出来ているか、咳や鼻水は無いか、
嘔吐や下痢は無いか、食欲はあるか、活気はあるか、けいれんは起こさないか、
意識状態はどうか、等をよく観察してください。

熱が出た、すぐ病院だ、大変だ、で来られても、診断がつかず、様子を見まし
ょう、になることが多いです。少子化の時代、大事な子どもさん。大切に育て
たい、間違いがあってはいけない、と言う気持ちは分かりますが、私などの様
な還暦過ぎのジジイよりも子どもの生命力はズット強いです。